

〔論文〕

(3) 大野コミュニティ（常滑市）の 有志参加型組織と活動

山崎丈夫・光岡 彩

1. はじめに

コミュニティ組織自ら企画し、住民参加型の「まちづくり」の提案を行った地域として評価できる事例として、大野町コミュニティの取り組みを取り上げることができる。さらに、このコミュニティは、その組織構成からも愛知県内の多くの地区のように、もっぱら従来の地縁組織を包括させた形ではなく、町内会その他地域団体と連携しつつも、有志で構成する形態をとっている。

以下に、大野コミュニティ（会長・井上恭子）の現状を述べ、さらにその特徴と課題を整理した。

2. 地区の特徴

常滑市の北部に位置する大野地区は、700世帯、人口約 2000 人で、古い町並みが残る地域である。昭和 30 年頃までは、名古屋からの海水浴客で賑わったまちである。

同地区は、南北 2 町内会で構成されているが、旧住民主体のまちという特徴から地縁組織基盤は確立している。

3. コミュニティ組織編成の特徴

(1) 推進組織の特徴一個人有志参加型

大野コミュニティは、昭和 63 年 3 月に発足した。まちづくり活動に関心のある町内および近隣住民の有志の個人加入制である。こ

れは、常滑市内にある他のコミュニティ組織の編成とも異なっており、先ほど述べたように従来の地縁組織が強固に確立しているため、それとは独立して組織づくりを始めざるをえなかったという地域性から生まれた形態ではないかと推測される。現在の会員数は、60 名（平成 11 年 7 月）で男女比で 5:5、年齢構成も 30 代～80 代と幅広い世代が活動に関わっている。

(2) 推進組織の編成方法

1) 会員構成

本会は、常滑市大野町とその近隣の住民をもって構成している。

（大野コミュニティ規約第 3 条）

2) 目的と事業

目的：本会は、会員相互が、健全な精神と体を地域社会発展のため行使し、コミュニティ活動の推進により、明るく住みよい町づくりと新しいふるさとづくりをすることを目的とする。

（同第 2 条）

事業：本会は、第 2 条の目的を達成するため次の事業を行う。

(1) 明るく住みよい町づくりと、新しいふるさとづくりに関すること。

(1) 各種団体間の親睦及び他地域・他団体との交流に関すること。

(1) 学習活動を通じ、豊かな人格形成
づくりのための研修に関すること。

(1) 芸術・文化の香りが漂う清新な創
造活動に関すること。

(1) 情報発信活動に関すること。

(1) その他、目的達成に必要な事業。

（同第4条）

3) コミュニティの役員

会長1名、副会長1名、書記1名、会計1
名、各部会の正・副部長各1名、監査1名、
顧問若干名から成っている。（同第5条1項）

役員は総会において会員の互選により選出
する。（同第5条2項）

役員の任期は1年とする。ただし、再任は
妨げない。（同第5条3項）

4) コミュニティの機関

(1) 役員会は、会長、副会長、書記、
会計、各部会正・副部長をもって充
てる。（同第7条1項）

(2) 部会は、第4条に規定する事業等
の推進を図るため、本会に次の部会
をおく。また、必要に応じて特別部
会を設けることが出来る。

①総務部会②事業部③特別部会

各部会の事業については、平成
11年度総会資料から以下の通りで
ある。

①総務部会：新聞づくり、21世紀を
考える会

②事業部：花壇づくり、駅前広場、
研修会、ごきぶり団子、天ぷらパー
ティ

③特別部会：ウォークラリー

(3) 会議については、総会年1回、定
例会月1回、随時役員会、部会、特

別部会、インターネットを活用して
の企画会議等を行っている。（平成
10年度事業報告より）

(3) その他の特徴

会員の組織編成は個人参加ではあるが、会
の方針が既存の各地域集団をつなぐ「チェー
ン」としての活動を主体にしている。具体的
には、住民が参加しやすいイベントを行いな
がらまちづくりをしているという主宰者の言
葉通り、活動に関しては以下のような形で行
事への地域諸団体と相互参加・協力・調整・
連携を行っている。

- ・花壇づくりへの地域諸団体会員の参加。
- ・コミュニティ新聞では、自らの活動だけ
ではなく他団体の活動や街の話題を取り
上げ、会員だけではなく大野町の住民に
情報発信をしていること。
- ・町内住民団体の行事カレンダーを発行す
ることで、地域団体のコーディネート機
能を果している。
- ・川の浄化や大野水軍をしのんで行われる
大野龍神祭（実行委員会方式）への企画
参加、行事への相互参加・協力を図る。

(4) 財政面

コミュニティを支える財政としては、同規
約第8条では「本会の運営は会費（年間1,000
円）、寄付金、補助金、その他をもって充て
る」としている。平成11年度予算（案）を
見ると、常滑市からの「街づくり事業費」補
助金が¥300,000、事業ごとに参加者から徴収
する「特別会費」が¥240,000そして、資源回
収等での雑収入¥184,027と続く。会員構成が
有志参加であることから、財源の中で会費が

占める割合が少ないのが特徴的である。さらに、行政からの補助が予算額の約3分の1を占めているが、この補助はコミュニティ組織の管轄である行政課ではなく、市の企画課の管轄である住民団体等が行うまちづくり振興事業に補助金を交付する「まちづくり事業費」としての補助金である。（資料1）

4. 活動内容

大野コミュニティの、地域目標の設定についての考え方は、『大野コミュニティ10周年記念誌』のあとがきからその主旨を伺い知ることができる。そこでは、『行事』を行うことを目的とするよりも、その行事を通して住民が関わり、人、町、行政などの理解や学習を深める中で、参加者がまちにより深く関心を持ち『私のまち』として誇りと愛着を育み、新しいコミュニティづくりに関わってほしい」と述べている。つまり、大野コミュニティの様々な活動を通して生まれる人間関係、そして参加した住民が自分のまちに関心を持ち、市民としての責任を持って自らが担い手となること、その上で自分たちの住む地域づくりに取り組んでいくことを地域目標として目指している。そこで、10年の歩みおよび平成10年度事業（資料2）の中から、以下に地域問題解決の活動、組織強化・活動継続を目指した活動の目的、内容、特徴について整理しておきたい。

【地域問題の解決】

①資源回収（ゴミの分別）

常滑市で分別回収が始まることを契機に、資源回収だけを目的とするのではなく、リサイクルについて自分たちがなにをすべきなのかを理解する為に、講演会（平成6）を開催

した。ただ集めるということだけから、ゴミ処理・資源化への理解を深め、リサイクルをいかに広めていくかという視点から取り組まれている。

②ゴキブリだんごづくり

「大野町全戸のゴキブリを駆除する」という目的で、家庭環境美化活動の具体的活動として、コミュニティ活動の中に位置付けている。当初は婦人会が行っていた取り組みを引き継ぎ、コミュニティで継続して取り組んでいる。

主催は大野コミュニティであるが、区（町内会）の班長に注文から配達・集金まで依頼しており、区の行事並みの取り組みになってきている。

③大野橋掛け替えに伴う橋のデザインの提案

この活動に取り組む背景には、隣町にかかった橋が、太鼓橋で住民が歩きづらい橋であったのをみて、行政の事業のあり方に疑問を感じたコミュニティの会員がいたということがある。

コミュニティ地区では、大野橋の掛け替えを行うことを知った以降、既に市としての橋のデザインも決まっていたが、市からの要請もありデザインの提案について取り組み始めることになった。そこで、専門家を招いての講演会、そして会員だけでなく住民にも呼びかけて、ワークショップを行った。平成10年に、このワークショップで提案した橋の欄干の提案が採用され、現在、工事が進められている。

この取り組みを通して、自分たちの提案した案が、事業に取り入れられたことで、コミュニティとしての活動の大きな実績となった。

※①②③④については北集会所にて「説明」をします。

尾張大野歴史散策うり一案内地図



ワークショップにも行政の担当者が参加するなど、行政とのパートナーシップの確立につながる効果も生まれた。

また、コミュニティ紙『好きです この町 大野町』の No. 22（平成10年9月発行）では、同月に行ったこの橋づくりの提案に向けて行ったワークショップのまとめで、以下のように述べている。

『『ようこそ』というもてなしの心を持って、住民はもとより、よそから来る人にもホスピタリティを持ってもてなしをしよう。そして祭りだけでなく日常、非日常を問わず、誰かにここで会える出会いを大切に、過去の遺産や光を次世代に伝えつつ、市民が責任を持った橋づくりを行っていききたい。今後この活動とパートナーシップを取りながら、皆さんと進めていききたいと思います。』

このコメントからは、コミュニティ活動の目的を理解し、活動をより具体化させていこうとする意欲が感じられる。

④尾張大野散策に関連した取り組み

大野の歴史的文化を大切に、内外に理解を広げたいという考えから、平成2年より散策地図（別掲参照）の作成を開始する。地図作成に関しては、常滑市商工観光課、常滑市観光協会大野町支部、大野町住民の協力により、平成4年10月に発行した。

それ以後、大野の歴史を訪ねる会等散策の催しを行ってきたが、平成10年に地元商店街等と共に「大野町商店街散策ウォークラリー」「尾張大野にここ元氣村」を開催している。さらに、平成11年度「尾張大野歴史散策ラリー」という名称での開催となる。ウォークラリーを企画するにあたっては、ガ

イドヘルパー講習会（4回）、空屋を利用したギャラリー等の企画を考案しながら、定着した催しとなるよう今年度も特別部会の取り組みとして位置付けている。

⑤親しまれる大野駅前広場づくり

以上の取り組みに加えて現在は、大野駅前広場をまちの玄関として見苦しくないように、そして、わくわくとする遊び場、くつろぎ楽しみ、出会いがあるコミュニケーションの場としていくために、木を植えたり、丸太でベンチを作って、住民に親しまれる駅前広場づくりを行っている。そして、このような広場づくりのために、広場の名前の公募や利用方法を探るためのワークショップに取り組んでいる。さらに地域問題解決の活動テーマとして、大野海岸の変貌（世界最古の海水浴場の喪失問題）について取りあげていくことが検討されている。

【組織強化・活動継続のための活動】

①コミュニティ紙の発行

役員・参加者拡大、コミュニティ活動への理解を促す一つの方法としてコミュニティ紙の発行があげられる。大野コミュニティでは、年4回発行されている。特徴としては、コミュニティの活動だけでなく大野の小学校、他の組織の取り組みや町の情報を取り入れており、まちの情報集約・発信の役割を果たすと同時に、要所要所に「まちづくり」の意義を掲載するなど、啓発を心がけている。文字通り地域紙となっていると評価できる。また、作成にあたっては、会員がEメールを利用して企画を作ることによって作業の効率化を図り、会員の写真店が専門家として作成を行うなど、

地域の専門技能を持った人材を発掘し、活用しているところも質の高いコミュニティ紙作成の要因の一つと考えられる。そのほか、ホームページでコミュニティの紹介を行っており、時代にあわせて柔軟に対応し、新しい手段を取り入れているところが特徴である。

②交流会・研修会

大野コミュニティでは、「何か課題に取り組む時、研修会から始める」という会員の意識の下で、活動の意義・目的を明確にするために視察、他地区との交流会や講師を招いての講習会を行っている。

この取り組みの特徴としては、住民参加のイベントという目的も有しながら、その時の課題・関心・テーマに沿った企画をし、学習だけに終わらせることなく、それを取り組みとしてフィードバックさせている。

例えば、リサイクルについての講演会などはその目的も明らかであるが、ワークショップなど、まちづくりの目的・手法に関する研修を行うことで、会員・組織そして参加した住民のスキルアップを図ることができる。

5. 大野コミュニティと行政との関わり

コミュニティ組織は、「住民の自主的な活動」であるという位置づけから、行政からの事業費補助はあるが、コミュニティ組織自体へ財政上、組織上のバックアップをしているということはない。このことは、先に述べた組織編成における財政上にも、その特徴が出ている。

他自治体のコミュニティ組織では、市民運動会運営等の行政からの事業委託とそれに伴う補助金収入という「行政の補完的關係」を

見ることができる。大野コミュニティの場合は、こういった強いつながりがないことが、コミュニティの活動面において行政補完的役割がなく活動が柔軟にできる反面、行政との一体的な連携体制の確立が難しい要因の一つともなっている。

そういった点から、前項の大野橋掛け替えに伴う橋のデザインの提案をきっかけに、つながりが出来た行政との関係を、今後、継続・発展させていけるかどうかが課題となろう。

6. 他団体の活動との連携

大野コミュニティが活動の場とする大野町には、他にも住民団体の活発な活動がある。そのひとつが商業活性化に向けた大野町商店街振興組合の取組み「尾張大野元気村」構想である。これは、「高齢化社会における商店街のあり方」というテーマで、高齢者にやさしい商店街づくりに取り組んでいる活動である。商店街活性化、地域活性化の新たな展開を目指している商店街の店主の何人かが、大野町の高齢化率が高いことと、消費構造の変化、モータリゼーションに伴う、大型小売店の郊外進出等で問題として浮かび上がってきた商店街の衰退化という現状を結び付けたものである。

具体的には「まちを考える」ことをテーマに、高齢者・障害者を中心とした住民でタウンウォッチングやアンケート、高齢者疑似体験、ワークショップを行い、住民のニーズ把握や啓発活動に取り組んでいる。それをもとに、平成9年3月地域活性化の行動計画案「尾張大野元気村」構想をつくり、平成10年に「開村」し、村長に有名人を起用したり、「大野町商店街散策ウォークラリー」「尾張大

野にここに元気村」を開催する等の取組みを行った。「大野町商店街散策ウォークラリー」の中のウォークラリーに関しては、前述の通りコミュニティが協力団体として関わっている。

7. 特徴と課題

最後に大野コミュニティの活動の特徴と課題をまとめておきたい。大野コミュニティの活動は、矢田川河畔でのてんぷらパーティなどの親睦、散策図づくり、花壇づくり、ゴキブリだんごづくり、資源回収等まちの資源のほりおこしなど、その時々「まちのニーズ」を取り上げて、それを研修、ワークショップ等の形でイベント開催につなげていくという住民が参加しやすい方法で、まちに関する問題を提起してきた。このような意欲的に事業を企画して会を継続できたことは、有志組織である活動形態の柔軟さと、会員の意欲と活動参加への積極性に支えられている。そして講師を招いての研修・勉強会、他地域との交流・視察等を行うことで、住民参加のイベント目的も有しながら、会員・組織のスキルアップを図ってきた。

このような活動の積み重ねが、橋の欄干改修時のデザイン提案への取り組みにつながり、さらにその要求が通り具体的な施策として結びついたことが、組織のステップアップ、住民の意識や理解の高まりへとつながった。大野コミュニティは、市民活動的・NPO的な要素が強い組織ではあるが、組織編成は異なる他地区でも、このような活動方法を活用することは可能である。

先にあげた地区の目標（地区像）のもとに、「地域住民のニーズ」の具体化を実現しつつあ

る大野コミュニティは、活動を積み重ねることで組織的力量はステップアップされた。今後はこの発展をさらに継続し、より多くの住民参加を促し、まちの問題を掘り起こしつつ、行政とのパートナーシップ型まちづくり活動を通して、地域行政施策に参加していくことが課題であろう。

以上の課題を具体化するには、「地域の各種住民組織との一層の連携の強化」をあげることができる。

地域の発展に向けては、地域の各組織・団体がお互いの組織の特質と限界を明確にし、各団体の特徴をお互いに認識し、それを自らの活動に活用していけるようになることが理想である。

有志参加型という「個人参加」型の組織である大野コミュニティの現状は、「地域住民」全てのニーズを反映する組織となるには至っていない。その限界を乗り越えるためには、以下にあげたような団体の組織・運営面に参加し、組織的な連携を図ることが必要である。

- ① 地縁組織（町内会・自治会）との関係
- ② 学校等公的団体との関係
- ③ 商店街等地域産業
- ④ 各種ボランティア・NPO 組織
- ⑤ 各層別組織（老人会・婦人会）との関係
- ⑥ 行政との関係

これらの団体との連携を強化していくためには、既存の地域組織や各種団体がコミュニティ組織の意義や目的を評価し、相互理解・連携の必要性の認識を高めていくために、これまでも増した共同の取り組みの積み重ねが必要であろう。

〈参考資料〉

- (1) 『大野コミュニティ10周年』（記念誌）

平成10年3月

- (2) 『平成11年度 大野コミュニティ総会
資料』

資料1 まちづくり事業費補助金交付要綱

（目 的）

第1条 この要綱は、住民団体等が行うまちづくり振興事業に補助金を交付することにより、活気あるまちづくりの推進を図り、もって地域振興の向上に資することを目的とする。

（補助対象事業）

第2条 補助対象となる事業は、次の各号の一に該当しなければならない。ただし、既に他の補助要綱等に該当する事業については除く。

- （1）常滑市のPR・イメージアップに関する事業
- （2）地域振興及びまちおこしに関する事業
- （3）その他まちづくりの振興に関する事業

（補助額）

第3条 前条各号に係る事業費のうち、住民団体等に交付する補助金の補助額は、予算の範囲内で次に掲げる額とする。

- （1）事業費の1/2以内で100万円を越えない額とする。
- （2）市長が特に必要と認めるものについては、前号の規定にかかわらず、事業費の1/2以内で市長が別に定める額とする。

（交付申請）

第4条 補助金の交付の申請をしようとする住民団体等（以下「申請者」という。）は、補助金交付申請書（様式第1号）を市長に提出しなければならない。

（交付決定）

第5条 市長は、補助金交付申請書を受理したときは、速やかに当該申請の審査を行い、補助金交付の可否を申請者に通知するものとする。

2 市長は、補助金交付の目的を達成するため、前項による補助金交付の決定を行う場合に、必要があるときは、条件を付することができる。

（申請の取下げ）

第6条 補助金の交付決定を受けた住民団体等（以下「補助事業者」という。）が前条第1項の通知による補助金の交付決定の内容又はこれに付された条件に不服があるときは、当該申請を取り下げることができる。

（事業内容の変更等）

第7条 補助事業者が補助金交付の決定を受けた事業（以下「補助事業」という。）の内容を変更し、又は中止し、若しくは廃止しようとするときは、事業計画変更（中止・廃止）承認申請書（様式第2号）をあらかじめ市長に提出し、承認を受けなければならない。

（実績報告）

第8条 補助事業者は、当該補助事業が完了したときは、完了の日から起算して20日以内又は当該年度の末日までのいずれか早い時期に、実績報告書（様式第3号）に請求書（様式第4号）を添えて、市長に提出しなければならない。

（補助金の交付）

第9条 補助金は、当該補助事業完了後に補助事業者に交付するものとする。ただし、市長が特に必要と認めたときは、当該補助事業完了前に、その一部又は全部を概算払又は前払により交付することができる。

（検査等の実施）

第10条 市長は、当該補助事業の適正な実施を図るため、補助事業者に対し報告を求め、若しくは指示し、又は必要と認めたときは、検査をすることができる。

（交付決定の取消又は補助金の返還）

第11条 市長は、補助事業者が次の各号の一に該当すると認めたときは、補助金の交付決定の取消又は補助金の一部若しくは全部を返還させることができる。

- （1） この要綱又は補助金の交付決定の際に付した条件に違反したとき。
- （2） 補助事業者が補助金を当該補助事業以外の用途に使用したとき。
- （3） 補助金の運用又は補助事業の執行方法に不適当な行為があったとき。
- （4） 提出書類に虚偽の事項を記載する等、不正な行為があったとき。

（関係書類の保存）

第12条 補助事業者は、当該補助事業の収支を整理記帳し、その証拠書類、帳簿等を整備し、当該補助事業完了の翌年度から起算して5年間保存しなければならない。

2 市長は、前項の帳簿等を閲覧し、又は必要と認めるときは、関係帳票の提出を求めることができる。

（雑 則）

第13条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付について必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和62年10月1日から施行する。

資料2 大野コミュニティのあゆみ

- 昭和 63. 3 設立総会 講演 歴史を生かした町づくり（瀬口先生）
" 63. 8 第1回大野龍神祭に参加
" 63. 11 大野町駅南の花壇づくり
- 平成 1. 6 講演会 常滑全市域の産業・文化振興と産業研究
博物館ネットワーク構想（森先生）
" 2. 2 組織づくり 会員募集案を作成
" 2. 8 龍神小屋建築協力
" 2. 9 一泊研修旅行（長野乗鞍、上高地）
" 2. 11 尾張大野散策地図作成
" 3. 11 牛乳パック、アルミ缶回収を始める
" 4. 5 講演会 大野に何を求めますか？（青山先生）
" 4. 10 尾張大野散策地図作成、講演会・仏教を知りたい人のために（岩瀬氏）
" 4. 11 研修旅行（郡上八幡）
" 5. 2 常滑市芸能フェスティバルに参加
" 5. 6 講演会 新しい時代のコミュニティ（吉田氏）
" 5. 5 大野の歴史を訪ねる会
" 5. 6 大野町駅へプランターを設置
" 5. 7 龍神船の進水式に参加
" 5. 8 市の花壇コンクールに応募 団体賞を受賞
" 5. 10 尾張大野小路絵図 2000 部発行
" 5. 11 大野の歴史を訪ねる会 パートⅡ
" 5. 11 研修会 雨森見て歩き（滋賀県高月町）
" 6. 4 講演会 より良いゴミとのつきあいかた（萩原氏）
" 6. 4 市制 40 周年記念植樹祭に参加（黒松 30 本植樹）
" 6. 6 シェアリング イン スクール（オカリナ教室）
" 6. 6 花いっぱい運動 国体の花植え参加
" 6. 6 研修会 浜名湖フラワーパーク
" 6. 9 アンケート コミュニティ情報に関する調査
" 6. 11 講演会 コミュニティ情報に関する調査結果報告（中田 実先生）
" 6. 11 郷中知多栗毛 大野町散策
" 6. 12 牛乳パック・アルミ缶回収終了
" 7. 6 講演会 これからの大野の町づくり（権田・後藤氏）

- ” 7. 6 各種団体のカレンダーづくり
- ” 7. 9 大野町敬老会協力
- ” 7. 10 とこなめ21世紀計画市民懇話会に参加
- ” 7. 11 市民運動会協力
- ” 7. 11 研修旅行（大原ガラス、石塚ガラス）
- ” 8. 2 中之島南の花壇づくりの説明会、花壇づくり
- ” 8. 3 ゴキブリだんごづくり
- ” 8. 4 散策立て看板設置（4本）
- ” 8. 6 中之島南花壇の名称決定（中之島フラワーベルト）
- ” 8. 10 研修旅行（愛知県緑化センター 足助）
- ” 8. 10 天ぷらパーティ（花壇の花をみて語ろう会）
- ” 8. 11 講演会 パソコン教室入門（小栗先生、今西氏）
- ” 9. 1 講演会 パソコン教室入門 パート2（森田氏）
- ” 9. 3 ゴキブリだんごづくり
- ” 9. 5 天ぷらパーティ（花壇親睦会）
- ” 9. 6 研修会 元気の出るコミュニティ（富田・阿部・神谷氏）
- ” 9. 7 交流会 豊橋でプラス、ベータとの交流会（ワークショップ）
- ” 9. 7 常滑市福祉大会 感謝状授与
- ” 9. 9 交流会 大治南小学校校区地区コミュニティ推進協議会
路上観察会（大野町を歩いて観察）
- ” 9. 9 大野町敬老会協力
- ” 9. 11 市民運動会に参加協力
- ” 9. 11 地方自治法施行50周年記念式典 感謝状授与
- ” 9. 11 講演会&ワークショップ（伊藤氏）
- ” 9. 12 資源回収
- ” 9. 12 散策立て看板設置（2本）
- ” 10. 2 大野橋の模型づくり
- ” 10. 3 ゴキブリだんごづくり
- ” 10. 3 10周年記念講演会&ワークショップ

自主事業 コミュニティ新聞の発行

花壇の手入れ 毎月1回～2回

資源回収 毎年1回～2回

参加事業 大野龍神祭 文化祭 みんなの生活展 公民館まつり